

社会資本総合整備計画 中間・事後評価

平成30年3月
【担当及び関係課】道路交通局道路部街路課

計画の名称	地域づくりを推進する道路等の整備
計画の期間	平成25年度～平成27年度（3年間）
計画の目標	

連続立体交差事業と合わせて関連する幹線道路等の整備を行い、踏切事故や踏切遮断による渋滞を解消するとともに、道路網や沿道の良好な市街地の形成を推進する。

計画の成果目標（定量的指標）			
・対象事業区域における広島市域の踏切交通遮断率〔12時間：7時～19時〕を45.5%（H24）から0%に低減する。 ・広島市が実施する「行政評価制度市民意識実態調査」の「目的地への行きやすさなど、道路の整備状況の満足度」を向上させる。			
定量的指標の定義及び算定式		定量的指標の現況値及び目標値	
		当初現況値 (H24当初)	最終目標値 (H27末)
踏切交通遮断率を整備前後で比較する。 踏切交通遮断率（％）＝踏切交通遮断時間（7時～19時）／12時間（7時～19時）		45.5%	45.5%
実態調査の「目的地へ行きやすい道路整備」という道路整備状況の満足度調査における全標本数に占める「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えた票数の割合（％） （道路の整備状況の満足度）＝（「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えた票数）／（実態調査の当該項目の全標本数）		52.2%	現況水準より向上 現況水準より向上
※H27末の目標値は、事業の完了が見込めないため未定としているが、事業完了後の最終目標値は0%である。			

評価事項

1. 要素事業の進捗状況

事業費	H25	93 百万円
	H26	340 百万円
	H27	92 百万円
	合計	525 百万円
○基幹事業 ・JR山陽本線・呉線 東部地区連続立体交差事業の見直し検討を行った。 関連道路整備に必要となる用地の取得を行った。		

2. 事業効果の発現状況、目標値の実現状況

要素事業の 効果の発現状況	○基幹事業 ・ J R 山陽本線・呉線 事業計画の見直しを行っている。			
目標値の実現状況	指標： 踏切交通遮断率を整備前後で比較する。			
	中間目標値（H26末）	最終目標値（H27末）	目標値と実績値に差が出た要因	新たに策定した整備計画（連続立体交差事業による安全・安心な地域づくりの推進）に移行したため、評価は実施していない。
	45.5%	—		
	中間実績値（H26末）	最終実績値（H27末）		
	—	—		
	指標： 実態調査の「目的地へ行きやすい道路整備」という道路整備状況の満足度調査における全標本数に占める「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えた票数の割合（％）			
	中間目標値（H26末）	最終目標値（H27末）	目標値と実績値に差が出た要因	新たに策定した整備計画（連続立体交差事業による安全・安心な地域づくりの推進）に移行したため、評価は実施していない。
52.2%以上	52.2%以上			
中間実績値（H26末）	最終実績値（H27末）			
—	—			
要素事業に併せて実施した他事業の効果の発現状況、及び本計画以外に設定した目標値の実現状況				

3. 今後の方針

継続中の要素事業については、新たに策定した整備計画（連続立体交差事業による安全・安心な地域づくりの推進）に移行し、事業着手に向けて関係機関との協議調整を行うとともに、都市計画変更及び事業認可変更の手続きを行う等、事業推進に努める。

4. その他特記事項